

ウズベキスタンにおける高等教育の国際化について
—国家教育政策に焦点を当てて—

INTERNATIONALIZATION OF HIGHER EDUCATION IN UZBEKISTAN:
FOCUS ON THE STATE EDUCATION POLICY

 <https://doi.org/10.5281/zenodo.8094354>

イブロヒモワズライホ IBROKHIMOVA Zulaykho

東京外国語大学大学院 総合国際学研究所 博士後期課程

ABSTRACT

Internationalization of higher education is a key element of national strategies to achieve national and international goals and priorities. Internationalization at the university level is the process of turning a national university into an international one, including an international aspect in all components of university management in order to improve the quality of teaching, research and achieve the required competencies.

This study examines the internationalization of higher education in Uzbekistan, focusing on state educational policy from three aspects: the transformation of curricula, the emphasis on academic activities and international cooperation. After becoming independent from Soviet Union, educational reforms have been continuously implemented in the country in order to provide education that is appropriate to the changing times and the needs of the people. Since 2016, the higher education sector Uzbekistan is undergoing significant changes.

More than half of the population of Uzbekistan is youth, and the education sector needs to be given much attention for the development of the country. For Uzbekistan, the establishment of an advanced and appropriate education system will be a solid path to the future.

キーワード : 国際化 教育政策 理念 単位互換

Keywords : internationalization; education policy; conception; ECTS

はじめに

国際化政策は、教育、外務、科学技術、文化、貿易等の様々な分野によって定義される。高等教育の国際化とは、国際社会において留学や国際交流が増加し、異なる文化、言語、教育制度を持つ人々が互いに交流することで、相互理解を深め、世界的な視野を広げることができるようになることを指す。高等教育の国際化は、国内および国際的な目標や優先事項を達成するための国家戦略の重要な要素であり、具体的な政策や資金提供された教育プログラム等、政府による教育政策が実施される必要がある [Knight 2008: 32]。

1991年に独立を宣言したウズベキスタンは、旧ソ連の制度から脱却を目指し、教育の全段階において積極的に改革を進めてきた。特に、2016以降、第二代大統領¹の下で高等教育改革が重視され、時代の変化に対応できる人材を養成するため高等教育分野が大きく変化している。本稿は、ウズベ

¹ 独立後のウズベキスタンの初代大統領はイスラム・カリモフ(Islom Karimov)である。2016年、カリモフの死後に行われた全国民大統領選挙では、シャフカト・ミルジヨエフ(Shavkat Mirziyoyev)が選出された。

キスタンにおける高等教育の国際化について、教育政策に注目しながら考察し、その特徴を明らかにすることを目的とする。そのために、高等教育の国際化について、教育課程の改革、研究活動の推進、国際交流の3つの側面から分析する。

ウズベキスタンの大統領は高等教育の国際化の方針について次のように述べている。

「高等教育の水準が諸外国の実績に基づいて改善され、教育の諸分野や教えられる科目が見直されます。非専門科目の数は半分になります。高等教育では、教育課程を単位互換制度に移行する必要があります²。」

この発言を受け、近年、ウズベキスタンの高等教育政策において教育の質向上、質の管理制度の導入、国際化に伴う教育課程の改善措置が注目されている。

2019年の大統領令³により「2030年までのウズベキスタン共和国の高等教育制度開発理念」(以下、理念2030と称す)が採択された⁴。理念2030において次のことが目的とされた。1) 国立および非政府高等教育機関の設立により高等教育の進学率を50%に引き上げる、2) 国内の10以上の高等教育機関を世界大学ランキングの上位1000に入れる、3) 高等教育課程を段階的に単位互換制度(ECTS⁵, kredit-modul tizimi)へ移行させる、4) 高等教育と企業および産業の協力を確立する、高等教育機関の教員および学生の学術的活動を強化する、5) 青少年の教育・育成のために包括的な措置を取ること⁶。

1. 国際化政策を受けた高等教育課程の改革

「理念2030」により2030年までに国内における85%の高等教育機関を単位互換制度へ移行させることが予定されている。単位互換制度とは、単位互換包括協定に加盟している高等教育機関に所属する学生が、他の加盟高等教育機関が開講する科目を履修でき、取得した単位が所属高等教育機関の単位として認定される制度である。単位互換制度は、教育課程の透明性を高め、教育の質を

² O‘zbekiston Respublikasi Prezidenti Shavkat Mirziyoyevning Oliy Majlisga Murojaatnomasi (28-dekabr 2018-yil) (2018年12月28日のウズベキスタン共和国大統領シャフカト・ミルジヨエフの国会への教書演説)

³ ウズベキスタン共和国における法案等が内閣府によって作成され、提案される。内閣府が次のように法案を作成する。1) 内閣が自ら、または、国家(Oliy Majlis)の委員会の提案に基づいて、そしてウズベキスタン共和国大統領令にしたがって、法案を作成し、検討のために下院(Qonunchilik palatasi)に提供する。2) 省庁、国家委員会、政府機関、その他の国立および経済管理機関に法案の作成を命令し、法案の作成を組織し、指示する。3) 政府機関、非政府組織、および科学機関に法案を提出し、審査を受ける。4) 省庁、国家委員会、および政府機関から、現在の法律の実施およびその有効性を調査した結果に関する情報を得る。5) 法案の作成に関連するその他の活動を行う。

⁴ PF-5847-son (大統領法令 5847号)

⁵ European Credit Transfer and Accumulation System の略

⁶ PF-5847-son (大統領法令 5847号)

向上させるものであり、ボローニャ・プロセス⁷の中心的な方法でもある。単位互換制度の導入は、高等教育課程の大きな改革である。以前の知識源は授業内でのみであったが、新制度への移行にあたって、学生の学習責任が高められ、授業外でも自習しなければならないことになった。本制度が成功できれば、ウズベキスタンの高等教育制度が発展し、教育の質向上が可能になり、教員の負担も軽減することでバランスの取れた教育課程が構築される。

2020-2021 学年度から約 30 校の高等教育機関が単位互換制度に移行された。単位互換制度への移行が認められた高等教育機関の中でも段階的な移行がなされている。全校および全学年の移行が困難なため、新しく入学した 1 年生から単位互換制度による教育が実施されている。つまり、高等教育機関が完全に単位互換制度へ移行するために最低 4 年かかると想定される。単位互換制度へ移行のメリットとして以下のことを挙げることができる。

1) バランスの取れた教育課程

教員と学生の教育課程における責任が明確に区別される。そして、必須履修科目数も減らされ、1 学期間で、以前の半分程度にあたる 7 科目のみの学習に抑えられることは、学生の自習の余裕を生み出す。加えて、教員も専門分野に関する研究を進めることができる。

2) 科目の選択

3) シラバスの提供

4) 学部および大学院プログラムの透明性

5) 教育課程の透明性

また、「理念 2030」により段階的に高等教育機関の財政的な自律も認められるようになった。2020 年 1 月から 10 校の高等教育機関に、さらに 2022 年に 30 校に財政的な自律性が与えられた。ウズベキスタンの大統領は 2020 年 1 月の国会での教書演説において、高等教育機関には段階的に学術面と財政面での自立性が与えられると述べていた⁸。しかし、著者が概観する限り、国家教育政策において財政的な自律性についての記述が見られるが、学術的な自律性についての記述がない。

2. 研究活動の推進

「理念 2030」を基に、ウズベキスタンにおける高等教育機関を世界大学ランキングの上位に入れるための措置が取られている。世界大学ランキング上位に入るための条件の一つは教育の質の管理である。それに伴い、ウズベキスタンにおいて初めて教育の質の管理制度が導入された。2019 年に「教育の監視

⁷ 欧州全体の教育制度、特に高等教育の調和を目指すボローニャ・プロセスは、1999 年に欧州の 29 人の教育大臣によって署名されたボローニャ宣言を基に活動している。ボローニャ・プロセスにより決定された条件を基に高等教育制度を運営している国は、プロセスに参加することができる。

⁸ O‘zbekiston Respublikasi Prezidenti Shavkat Mirziyoyevning Oliy Majlisga Murojaatnomasi (24-yanvar 2020-yil) (2020 年 1 月 24 日のウズベキスタン共和国大統領シャフカト・ミルジヨエフの国会への教書演説)

システムを改善するための追加措置について」という大統領令が發布された⁹。本法令によりウズベキスタン共和国内閣府の下に教育の質管理のための国家監督庁（以下、国家教育監督庁と称す）が設立された。国家教育監督庁は、外国で取得された学位の承認審査および国内の教育機関における教育課程の質を管理する役割を果たす。そして、発展国の経験を参考にしつつ、国内の教育機関のランキング作成と公式発表も行う。高等教育機関のランキング作成にあたって、教員の研究活動、提供される教育の質、学生の学力および卒業生の就職先を元にして評価される。ランキングで各教育機関の情報が可視化されたことは、高等教育機関への進学を目指している青少年の進路決定をより容易にすると考えられる。大学間の健全な競争環境を構築し、教育の質を向上させる、また世界大学ランキングに入る可能性を高めるため、2017年から毎年高等教育機関の全国ランキングが公開されている。2020年のデータによると、ウズベキスタンの高等教育機関ランキングトップ10の第1位は、ミルゾ・ウルグベック名称ウズベキスタン国立大学 (National University of Uzbekistan named after Mirzo Ulugbek) であり、第10位はタシケント国立東洋学大学 (Tashkent State University of Oriental Studies) であった。

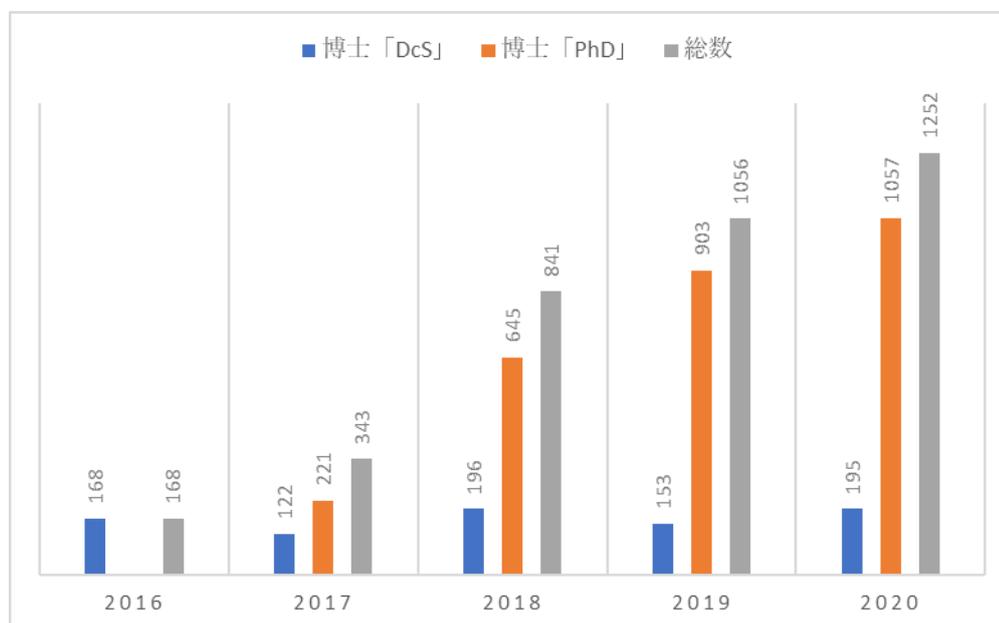
高等教育機関は世界大学ランキングに入るために次のように評価される。1) 学術的評判 40%、2) 学生の就職状況 10%、3) 教員および学生の比率 20%、4) 教員の学術成果 20%、5) 外国人教員比率 5%と外国人学生比率 5%。ウズベキスタンでは、世界大学ランキングの評価基準の一つである学術的評判を満たすため、教員の学位レベルの向上が注目されている。教員の学術的なレベルを上げるために2021年の「高等教育後の教育制度を改善するための措置について」という内閣府令¹⁰を基に高等教育後の教育制度が改善された。2017年より1層から2層構造の高等教育後の教育制度へ移行された。ウズベキスタンにおける高等教育後の教育制度は、博士課程および独立した研究に基づいた学位を持つ科学人材および科学教育職員の養成を提供する。学位取得のために適切な研究論文の執筆と審査が必要である。また、ウズベキスタン共和国内では、教員だけではなく会社や研究所などあらゆる組織において、学位取得者が優遇される。しかし、2016年以降の高等教育改革において教員の学位取得のみが注目された。これにより、教員は働きながら研究活動をし、学術的な能力を向上させることができるようになった。

下記の図1は、2016年以降、学位取得のために発表された論文数が増加しつつあることを示している。2016年のデータに関しては、1層構造の高等教育後の教育制度の実施により科学博士の学位が存在していた。2017年より2層構造の高等教育後の教育制度へ移行したことで、博士「PhD」の学位論文の数が多くなったことが読み取れる。2016年から2020年までの全体の学位論文数を見ると、博士「PhD」の論文の発表が多いことが分かる。したがって、今後の博士「DcS」の学位取得率が上がると思われる。

⁹ PQ-4119-son (大統領決議 4119 号)

¹⁰ Vazirlar Mahkamasining qarori 304-son (内閣府令 304 号)

【図 1】2016 年以降に発表された学位論文



(出典元：ウズベキスタン共和国高等教育・科学・イノベーション省「分析と統計」を参考に著者が作成)

【表 1】ウズベキスタンにおける高等教育機関の教員数および学位の内容

	2016	2017	2018	2019	2020
教員の人数	24,368	25,418	26,297	26,837	29,998
博士「DSc」	1415	1666	2023	2201	2312
博士「PhD」	6315	6649	7050	7769	9050
教員の学位取得率	31,9%	32,7%	34,5%	37,2%	38,0%

(出典元：ウズベキスタン共和国高等教育・科学・イノベーション省「分析と統計」を参考に著者が作成)

表 1 が示すように、2017 年の高等教育後の教育制度の改善に伴い、教員の科学博士、および哲学博士の取得数が増加した。まず、高等教育後の教育の第 1 段階である哲学博士学位の取得数が著しく増えた。その結果、高等教育後の教育の第 2 段階の科学博士学位の取得数も増え、さらに高等教育機関の学術的可能性の上昇にもつながると思われる。

【表 2】ウズベキスタン国内と国外で取得される学位の比較

学位

ウズベキスタン			外国 ¹¹
2013 年まで	2013-2017 年	2017 年以降	博士「PhD」 (Doctor of Philosophy)
科学候補者 (Candidate of Sciences)	博士「DcS」 (Doctor of Science)	博士「PhD」 (Doctor of Philosophy)	
博士「DcS」 (Doctor of Science)		博士「DcS」 (Doctor of Science)	

(出典元：内閣府令 304 号を参考に著者が作成)

表 2 よりウズベキスタン国内と国外で取得される学位の相違が明らかである。独立後から 2013 年までの 2 層構造の高等教育後の教育制度は科学候補と科学博士の学位取得の 2 段階に分かれていた。しかし、国外で取得された博士「PhD」学位には doctor という単語が付いているため、学位の承認が困難であった。しかし、2013 年より科学博士から成る 1 層の高等教育後の教育制度への移行は、外国で取得された博士「PhD」学位の承認問題を解決できなかった。そのため、発展国の経験が参考にされた、2017 年以降の博士「PhD」と博士「DcS」から成る 2 層構造の制度の導入は、国外で取得された学位の承認制度問題の解決にもつながったと思われる。なぜなら、学位が承認されるために教育形態もウズベキスタン内で適切でなければならないからである。しかしながら現在、ウズベキスタンでは遠隔教育が正式に導入されていないため、遠隔教育により取得された学位や卒業証明書は認められていない。2 層構造の高等教育後の教育の再導入は、国外で取得された学位の承認も容易にする。

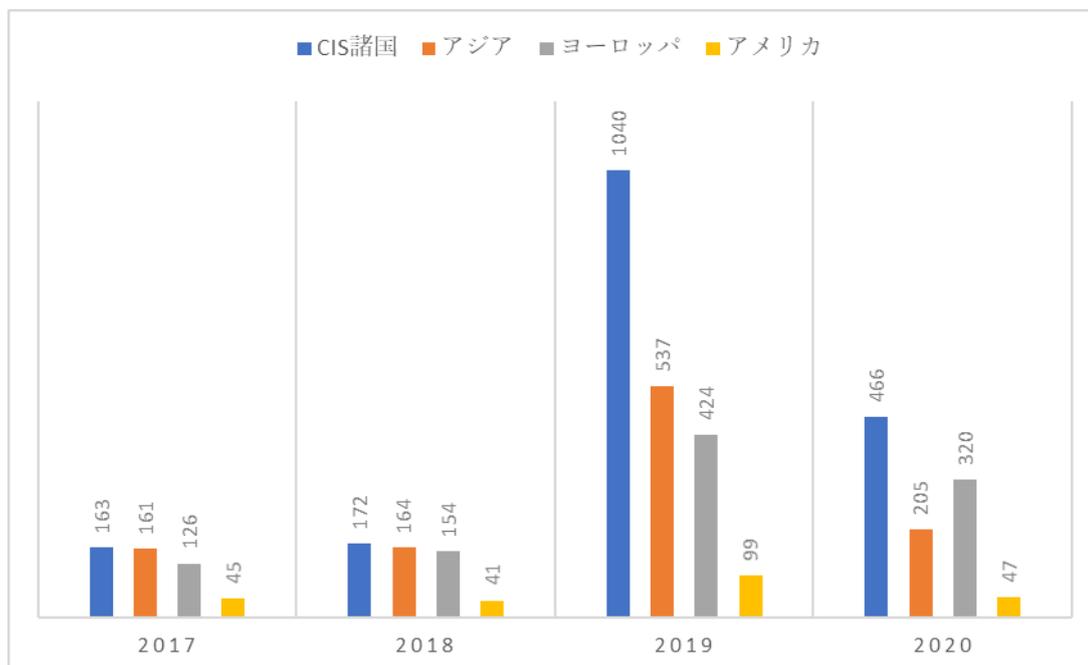
3. 高等教育における国際交流

高等教育における国際交流は、国境を越えた大学間の協力関係のことである。具体的には、留学プログラムの提供、研究交流、講師交換、国際的な学位プログラムの開発、大学間のパートナーシップである。これらの取り組みにより、高等教育機関はより国際的な学術環境を提供し、学生や研究者の能力向上、国際的なアカデミックネットワークの構築、さらには国際社会に貢献することが期待される。高等教育機関に財政的な自立性が与えられると共に、各大学が私費学生受け入れ枠を自由に決めることができるようになった。それに伴い、高等教育の資金の学費の割合が伸びはじめ、2016 年の国家資金の割合が 38% から 2020 年には 29% に縮小した¹²。高等教育機関が学費源の収入を増やすため、学生受け入れ枠を増加させることにより、学生数が増え、若者に高等教育を受ける機会が広がる。高等教育機関も学費源の収入を利用し、インフラを整備でき、教員の給料も上げることができる。外国の高等教育機関と協定を結ぶことで教員および学生の交換ができる機会が訪れた。ウズベキスタンの高等教育機関が外国の協定校から教員や研究者を招き、国際交流を積極的に行うことができるようになった。

¹¹ 旧ソ連の構成共和国を除き

¹² ウズベキスタン共和国高等教育・科学・イノベーション省「分析と統計」

【図 2】外国人科学者、研究者、優秀な教師の関与 (人)



(出典元: ウズベキスタン共和国高等教育・科学・イノベーション省「分析と統計」を参考に著者が作成)

図 2 は、2016 年以降、ウズベキスタンの高等教育に関わった外国人教員および研究者の人数が、年々増加傾向にあることを示している。2019 年には外国人教育者の人数が特に増えたことが分かる。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、2020 年に外国人教員および研究者の人数が減少したことが見て取れる。外国の高等教育機関から教員が招待されていることは高等教育の発展につながる。

単位互換制度の導入をはじめ、近年の高等教育の国際化政策の結果、ウズベキスタンにおける以下の大学が世界大学ランキング 2021 の上位 1000 に入った。

- タシケント国立法科大学(Tashkent State University of Law) 上位 500
- ウズベキスタ国際イスラームアカデミー(International Islamic Academy of Uzbekistan) 上位 1000
- ミルゾ・ウルグベック名称ウズベキスタン国立大学(National University of Uzbekistan named after Mirzo Ulugbek) 上位 1000
- タシケント国立歯科単科大学(Tashkent State Dental Institute) 上位 1000
- タシケント灌漑および農業機械単科大学(Tashkent Institute of Irrigation and Agricultural Mechanisation) 上位 1000¹³

おわりに

¹³ The world university rankings 2021

以上、高等教育の国際化に導く政策を分析した結果、近年の国際化政策の特徴として下記のこと
が挙げられる。

- 1) 教育課程の単位互換制度への移行による学生モビリティの可能性
- 2) 教育の質の管理施制度の導入と教員の学位取得率の上昇より大学間の健全な競争および世界の主要大学との学術協力の機会
- 3) 高等教育後の教育制度が改善により優秀な人材および頭脳を招く機会の増加
- 4) 高等教育機関に財政的な自立性が与えられることにより、国際交流の積極的な実施

本稿では、2016年以降のウズベキスタンにおける高等教育の国際化について国家教育政策に注目し、検討した。今後、高等教育の国際化に関する共通の課題を整理し、ウズベキスタンの教育政策について調査する必要があると考えられる。

参考文献 (REFERENCES)

1. イプロヒモワ・ズライホ (2023、印刷中)「独立後のウズベキスタンにおける高等教育の変遷について—国家高等教育改革を中心に—」、『クアドランテ』(東京外国大学), 25号.
2. マイケル・ページ, 青山佳代 訳 (2005)「高等教育の国際化 —評価およびパフォーマンス・インディケータ—」、『名古屋高等教育研究』, 5号, pp.130-132.
3. Knight J., (2008) *The Changing World of Internationalization*. Higher Education in Turmoil, p.32.
4. Knight J., (2015) *Updating the Definition of Internationalization*. International Higher Education, pp.2-3.
5. Кругликова, Т. *Болонский процесс: Итоги первого десятилетия. (Обзор)*, АПЕ. 2013. №2. С.189-220.
6. 【法令】
7. O‘RQ-60-son “Qonunlar loyihalarini tayyorlash va O‘zbekiston Respublikasi Oliy Majlisining Qonunchilik palatasiga kiritish tartibi” (ウズベキスタン共和国法律 60号「法案の作成及びウズベキスタン共和国国会下院に提供する手順」(発効日 2006年 10月 11日))
8. PF-5847-son “O‘zbekiston Respublikasi Oliy Ta‘lim tizimini 2030-yilgacha rivojlantirish konsepsiyasini tasdiqlash to‘g‘risida” (大統領法令 5847号「2030年までのウズベキスタン共和国の高等教育制度開発理念」(発効日 2019年 10月 8日))
9. PQ-4119-son “Ta‘lim sifatini nazorat qilish tizimini takomillashtirish bo‘yicha qo‘shimcha chora-tadbirlar to‘g‘risida” (大統領決議 4119号「教育の監視システムを改善するための追加措置について」(発効日 2019年 1月 16日))

10. Vazirlar Mahkamasining qarori 304-son “Oliy ta’limdan keying ta’lim tizimini yanada takomillashtirish chora-tadbirlari to‘g‘risida” (内閣府令 304 号「高等教育後の教育制度のさらなる改善措置について」(発効日 2017 年 5 月 29 日))